

巻頭言

Cover Story

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。在校生諸君の進級とあわせてお祝いを述べさせていただきます。

さて、無事に進学、進級された皆さんに改めて問います。「何のために学ぶのでしょうか？」

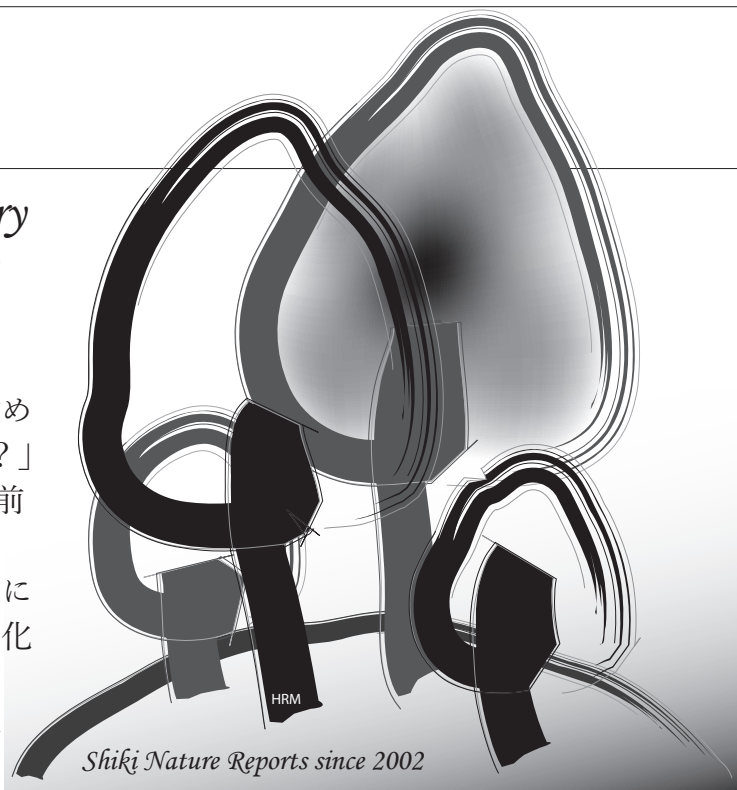
分類学者である熊澤辰徳氏は、(生物の)名前を知ること「知(世界)の解像度が上がる」と表現していますし、私の授業を受けた生徒には、学ぶことで「知覚できる世界の厚みが増える」と伝えています。

本校はご存じの通り、豊かな自然に恵まれており、受験生が面接で志望理由を問われたとき、「豊かな自然環境の中で落ち着いて勉学に取り組めるからです」と答えるのは、既に鉄板ネタです(笑)。せっかく本校に入学されたので、ご自身の発言に多少の現実味を添えてみましょう。自身の知の解像度を上げ、取り巻く世界を豊かにしてください。このキャンパスを見わたした時、漠然と「緑が多い学校」にしか見えない人と、「まもなくソメイヨシノが終わり、イヌザクラが花開くキャンパス」と目に映している人では、どちらが豊かな世界に生きているか…。

福澤先生は、この複雑な世界の理(ことわり=因果関係)を実証に基づいて解明し、問題を解決していく科学的な姿勢、考え方をサイエンス(=実学)と言うのだとおっしゃっています(サイエンスを「科学」という意味で使っていませんでした)。在学中に、あなたなりの答えを導き出せるようになっていけることを祈ります。

本校は今しばらくの間、野花が色鮮やかな季節の中にいます。どのようなものがあるのかを本誌を手掛かりに見つけてみてください。

(Miyahashi)



春の句

水濁す力を持たず蛙の子  
穴ふさぐやうに重なり蛙の子  
草抜いてお玉杓子をいぢめをり  
二坪の池を守りて熊ん蜂  
熊ん蜂笑窪のやうに尻光り

(Maekita)

春は展覧会の季節である。今年度担当している1年生の歴史総合5クラスでは、研修旅行とも絡めていくつかの展覧会を授業で簡単に紹介したが、ここではあらためて、その中の一つを少し詳しく取り上げたい。いま茅ヶ崎市美術館で開催中（6月7日まで）の展覧会「生誕100年 昭和を生きた画家 牧野邦夫—その魂の召喚」である。

まきのくにお

牧野邦夫（1925-1986）という画家を知っている人はほとんどいないかも知れない。昭和に元号が変わる前年に東京に生まれ、昭和18年（1943）に東京美術学校（いまの東京芸大）油画科に入学。同20年5月に召集され、8月、宮崎で終戦。翌年復学し、昭和23年卒業。17世紀の画家レンブラントに憧れ、古典技法による写実表現を追求して、独自の幻想的な世界を描いた。同時代の美術の流行とは無縁で、生涯特定の絵画団体に属さず、数年おきに画廊で開く個展を作品発表の場とした。美術学校時代に1日12時間以上描かないとダメだと教わって、それを実践していたらしい。レンブラントの絵に迫りつくためには90歳過ぎまで生きなければならない、と書き遺しながら、癌のため61歳で没している。

牧野の大規模な回顧展は2013年に練馬区立美術館で開催された「牧野邦夫—写実の精髓—展」以来で、今回は京都（昨年10月～11月）・茅ヶ崎・足利（今年6月～8月）の3会場で開催される。練馬の展覧会の時、美術史家の山下裕二氏（今展の監修者）が、牧野千穂氏（牧野邦夫夫人で今展チラシ＝右下の《千穂の顔》（1980）のモデル）に、生誕100年の2025年にもう一度回顧展をやりましょう、と約束したのがきっかけで実現したという。多くの作品が個人の所蔵で、美術館に収蔵されていないにもかかわらず、没後も忘れられずに世に紹介される機会を持っているのは、牧野の絵を深く愛する人たちがいるからだろう。私は京都で観たが、そうした周囲の人々との繋がりも含めて面白く鑑賞した。

私が牧野を初めて知ったのは2013年の練馬の展覧会の時である。大学院の後輩が行くと聞いて自分も行っただけで、志木高生にも見せたくなり、この年1クラスだけ担当していた1年生の授業時間に見学会を実施した。当時のカリキュラムで1年生に設置されていたのは「現代社会」という科目で、やや無理やりな企画だったと思う。生徒たちには、展覧会の社会的意義を考えさせるレポート課題を出して、よく書いていたものを『樗』22号に掲載した。その一つから、牧野邦夫展の感想が書かれた部分を引用してみたい。

鑑賞したのは牧野邦夫という画家の展覧会だった。さきほども記したように、タイトルは「牧野邦夫—写実の精髓—展」。牧野邦夫のことは美術が大好きな母と祖母が知らないくらいの、あまり世に知られていない画家。しかし、私は彼の絵に心打たれた。自画像や裸婦像が多く、100点を超える展示作品のほとんどに人物が描かれていた。ポーラ美術館などで風景画を見るのと違い、鑑賞し終わった後にいい意味での疲労感があった。軽やかな絵が多い現代にあって、極めて異質でとても印象深く、心に残った。

これを書いた卒業生（石川先生や伊藤正樹先生と同級生のはず）がいまどうしているのか知らないが、展覧会の開催に気がついて茅ヶ崎を訪れてくれたら、と思っている。

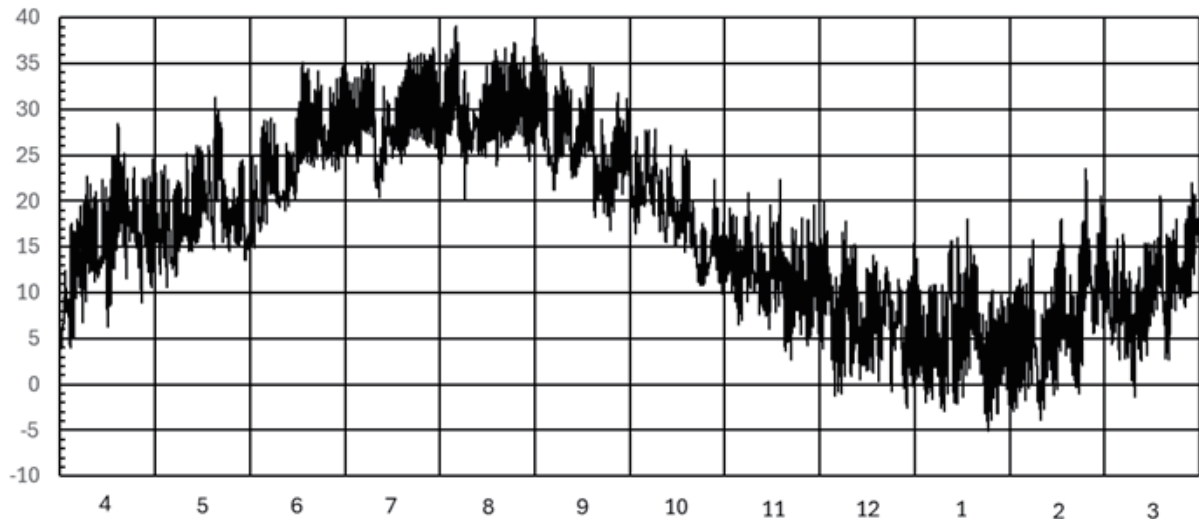
(Hara)



志木高には百葉箱がグラウンドの隅、ソフトテニスのコートの脇にあります。百葉箱の横からタコのように足が伸びた（実際にはケーブルです）先にはCampbell Weather Stationという自動気象観測装置があります。2020年の夏に設置し、気温や降水量、湿度、風向・風速、気圧、日射量、落雷、さらには地中の温度（深さ0.5m、1.0m、1.5m）の各種データを10分ごと自動的に記録しています。

図は校内の一年間の気温変化です（縦軸：気温、横軸：月）。計測は10分毎に記録していて1日に144回記録されます。これを365日、すなわち52560回の気温の変化をプロットしました。一年を通しての変化が必ずしも一様ではなく、急に暖かくなったり、寒くなったりしながら、季節変化していることがわかります。

志木高の気温変化 [2025/4/1 0:00-2026/4/1 0:00]



(Higuchi)

今回は「志木の森実行委員会」の2026年度実行委員長 3D 小田義人君に執筆を依頼しました。

## 志木高から三重の森へチョウショウインハタザクラ

本校には現在も多種多様な自然が残っていますが、その中で今回注目したいものが、チョウショウインハタザクラ（長勝院旗桜）です。この桜はおしべが(6または7枚目の)花卉に変わっているヤマザクラの突然変異体で、その姿が旗を立てているように見えることからこの名が付けられました。親木は志木市柏町の長勝院跡地にある樹齢400年以上の大木で、当時世界に一本だけの新種という希少価値から、平成5年志木市の指定文化財となりました。その後、市民の木として平成15年に制定され、その記念として苗木が市内の学校に配られました。それが今では志木高で立派に花を咲かせているのです。塾旗を振るかのようには咲き誇る姿からは、力強さと高潔な風格を感じられ、志木市だけでなく本校のシンボルとも言えるでしょう。

そして今年開催される志木の森ツアー30周年記念式典において、このチョウショウインハタザクラを三重県の志木の森へ植樹しようという計画を進めています。現在、その苗木の育成を志木の森実行委員会の手で行っているところです。挿し木による苗木づくりはみな初めてなので手探りです。ぜひ苗木の完成を皆さんも祈っててください。また、志木の森に興味を持った方はぜひツアーに応募してみてください。

3D 小田義人



ハタのように見える1枚多い花卉

【志木高に咲く満開のチョウショウインハタザクラ】



【植樹用の苗木】



【植樹用の苗木づくり】

ハナミズキは、標準和名アメリカヤマボウシの別名であり、漢字で花水木と表記される。日本からソメイヨシノがWashington D.C.に贈られた際の返礼として贈られた木として知られる。英名でdogwoodと表記される理由には諸説あるが、一説に17世紀頃に樹皮の煮汁がイヌの皮膚病治療に使用されたためというものがある。熊本大学薬学部のデータベースによれば、アメリカでは先住民により薬用植物として様々な用法が考案された。頭痛には樹皮を噛み、花はインフルエンザ罹患時の発汗薬とし、根は解熱薬とする等々、重宝されてきたようである。なお、白もしくはピンク色の花びらに見える部分は「総苞」と呼ばれる特殊化した葉である。

[2026年1月～2026年4月までの開花情報]

Grass

- 16. Jan ホトケノザ, ナズナ, ヒメオドリコソウ
- 26. Jan ニホンスイセン
- 16. Feb ミドリハコベ, オオアラセイトウ
- 26. Feb タネツケバナ, チチコグサ, ハナニラ
- 8. Mar カンスゲ, カタバミ, ヤエムグラ, セイヨウタンポポ, カントウタンポポ, ヘビイチゴ
- 16. Mar キュウリグサ, オオジシバリ, ムラサキケマン, トキワハゼ
- 28. Mar カラスノエンドウ, オンタビラコ, タチツボスミレ, キランソウ, カラシナ, ニホンスミレ, ムラサキサキゴケ, ハルジオン, カキドオシ
- 4. Apr マルバスマスミレ, カタクリ
- 9. Apr フデリンドウ, ヤブニンジン
- 11. Apr ヤブタビラコ, イヌムギ, シロツメクサ, ナガミヒナゲシ
- 17. Apr カモジグサ, ウマゴヤシ, シバクサ, アメリカフウロ, ムラサキカタバミ, ギシギシ, オオアマナ, タツナミソウ, チチコグサ, ツボミオオバコ, ブタナ, オランダガラシ, アメリカアゼナ

【ハナミズキ】  
ミズキ科ミズキ属

Wood

Map labels include: 【3/8】カンヒザクラ, 【2/26】カワヅザクラ, 【4/9】ハナミズキ, 【4/11】オオムラサキツツジ, 【3/8】イヌシデ, 【3/19】ソメイヨシノ, 【3/28】コブシ, 【3/19】クヌギ, 【3/28】イロハカエデ, 【4/17】ユズリハ, 【3/28】ケヤキ, 【4/4】トウカエデ, 【4/11】アオダモ, 【3/8】シキミ, 【3/8】メタセコイア, 【4/4】イチヨウ, 【3/16】レンギョウ, 【3/28】アオキ, 【4/9】ノダフジ, 【3/28】ポプラ, 【4/17】ヤマグワ, 【4/17】ムクノキ, 【3/28】エノキ, 【3/8】サクラ(サトウシキ?), 【3/16】ハナモモ, 【4/4】トウカエデ, 【4/17】コウゾ, 【3/8】ウグイスカグラ, 【3/8】アンス, 【3/21】ドウダンツツジ, 【3/28】ヤマザクラ, 【3/16】ヒサカキ, 【2/26】アセビ, 【4/9】ミズキ, 【4/17】イヌザクラ, 【4/11】コデマリ, 【4/17】キリ, 【3/28】ヤマブキ, 【3/16】ユキヤナギ, 【3/28】ナツグミ

(Aramaki)

(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前を出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	動物・環境	井澤 智浩 (Izawa)
	歴史・美術 (博物館)	原 浩史 (Hara)
	俳句	前北 馨 (Maekita)
	日本文化 (香道)	井之浦 菜里 (Inoura)
	日本文化 (茶道)	池田 卓也 (Ikeda)
	植物・地質 他[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)
	植物画・編集	荒巻 知子 (Aramaki)